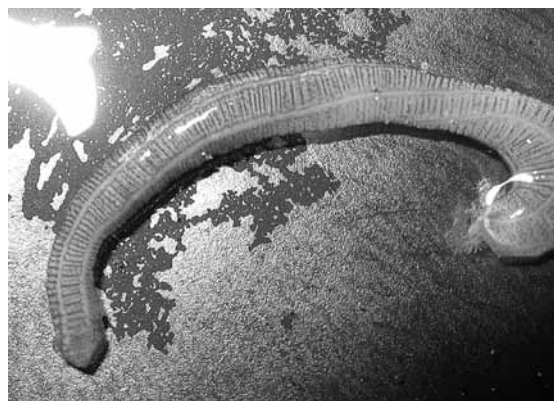


# 佐渡動植物生息実態調査で新種現る

市では、平成24年8月から「佐渡動植物生息実態調査」（以下、動植物調査）の事業を進めています。佐渡島内や近海に棲む野生動植物を調べるとともに、論文等の形で存在する情報を収集・整理し、「いつ・どこで・どの生物種が」といった基本的な事項を一元的にまとめるデータベース構築に取り組んでいます。計画やとりまとめは新潟大学に委託しており、他の大学や研究機関・団体の専門家から協力を得て、さまざまな分類群での調査を行ってきました。各分類群で収集したデータは、10月末段階で計2万件ほどになっています（事業は平成27年2月末に終了）。

ひとつつめはナマコの仲間、サドナデシコナマコです。新潟大学の臨海実験所（達者）が例年行っている臨海実習の真野湾での生物調査で、図

鑑には見当たらないナマコが繰り返し採集されていました。このナマコの種同定ができる専門家は国内にはおらず、種不明のままでした。種名や分類群を明らかにして動植物調査のデータとして有効活用するために、同実験所の野崎眞澄名誉教授や、技術専門職員の下谷豊和さんらがメキシコの専門家に標本を送付して種同定を依頼したところ、これまでに知られていない種であることが分かり、野崎名誉教授らの共著の論文の中に新種として9月に記載されました。全長5 cm程度で、淡いピンク色の体色からナデシコの名を入れることに



サドナデシコナマコ  
【撮影：新潟大学臨海実験所 安房田智司助教】

なりました。もうひとつはヘリジロコモリグモ。これまでのところ、国中平野西部から真野湾沿いの田んぼで採集されている種で、体長1 cm程度ですが、新しく見つかったクモ類としては比較的大型の部類に入ります。詳しい生態は分かっています。新潟大学の「自然再生学講座」（市の寄附講座）の野外調査時に最初に採集され、その後、動植物調査でも捕獲されました。動植物調査でクモ類の調査を行っている、東京大学の宮下直教授や農学特定支援員の谷川明夫さんがこのクモの形態等を詳細に検証し、



ヘリジロコモリグモの雌と卵囊  
【撮影：東京大学 谷川明夫さん】

8月末に論文で新種として発表しました。コモリグモの仲間は、雌が卵囊を持ち運び、生まれた子グモが小さいうちは腹部に付着させて保護しながら生活することが知られています。これらのケースは、2年前に新種記載されたサドガエルと同様に、これまで知られていなかった生きものが私たちの身近に暮らしていることを示しています。今後、私たちの足元から、さらに新種が発見されるかもしれません。



平成24年11月7日新種記載された「サドガエル」

お問い合わせ

市役所環境対策課環境企画係  
☎ 63-31113